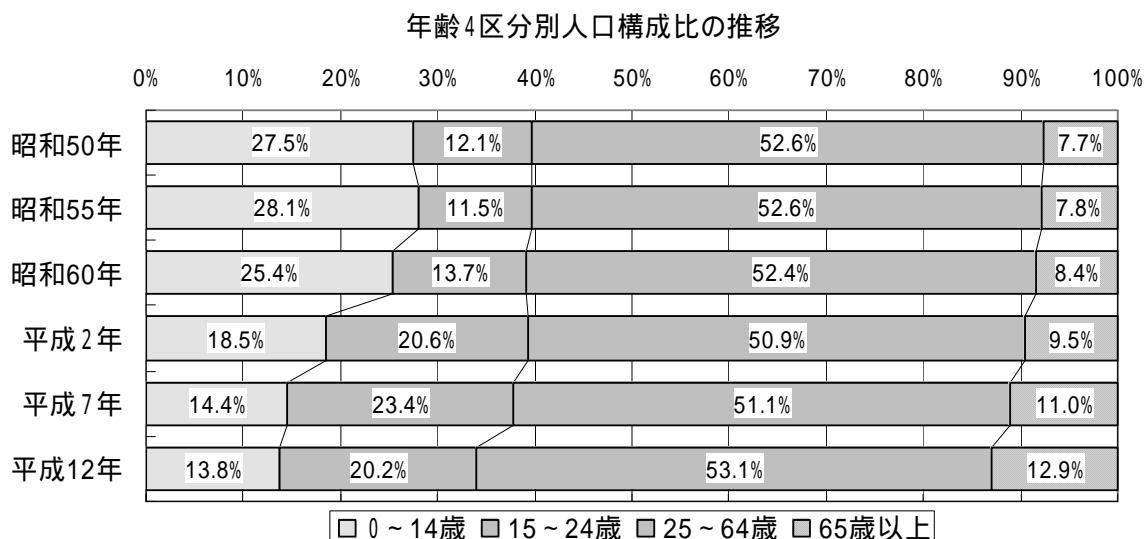


## 2 人口の動向

### (1) 人口

本市の人口は、昭和45(1970)年を境に急増傾向を示し、平成12(2000)年には昭和45年のおおよそ2.8倍になっています。

人口構成比の推移をみると、年少人口(0~14歳)比が減少し、生産年齢人口(15~64歳)比が増加傾向にあります。特に、15~24歳は平成2(1990)年以降、著しい増加傾向を示していますが、これは同志社大学・同志社女子大学の学生人口が含まれているためです。

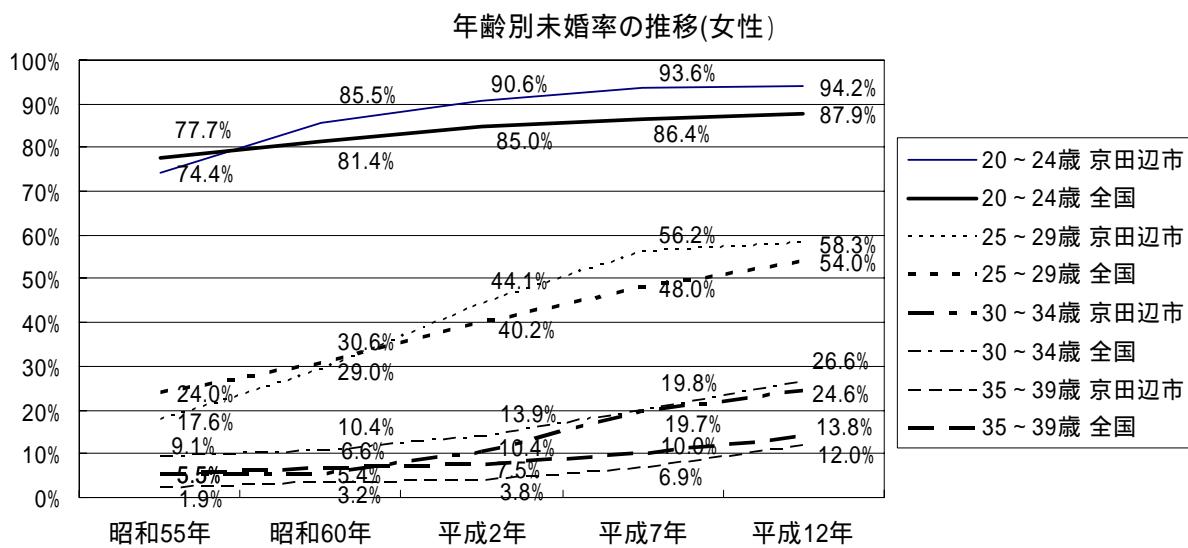
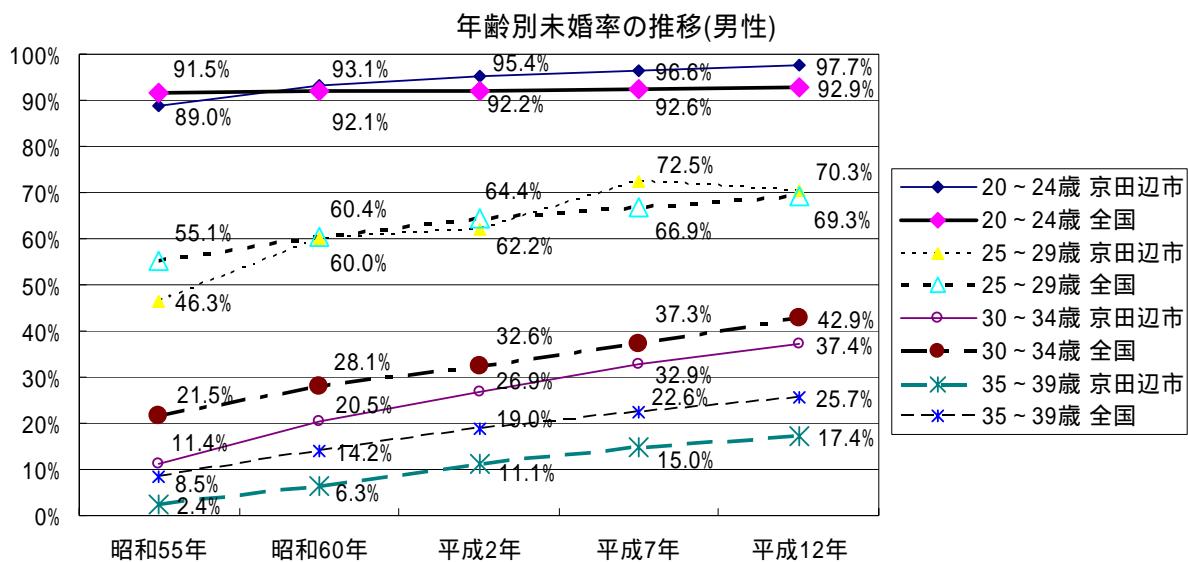


資料：国勢調査

## ( 2 ) 未婚率の推移

本市の年齢別未婚率をみると、女性の 25～29 歳の未婚率は、昭和 55(1980)年の 17.6%から平成 12(2000)年の 58.3%へと約 3 倍に上昇しています。また、男女とも昭和 60(1985)年以降の 20～24 歳の未婚率は国の平均よりも高くなっています。これは、学生の占める割合が多いことに起因すると考えられます。

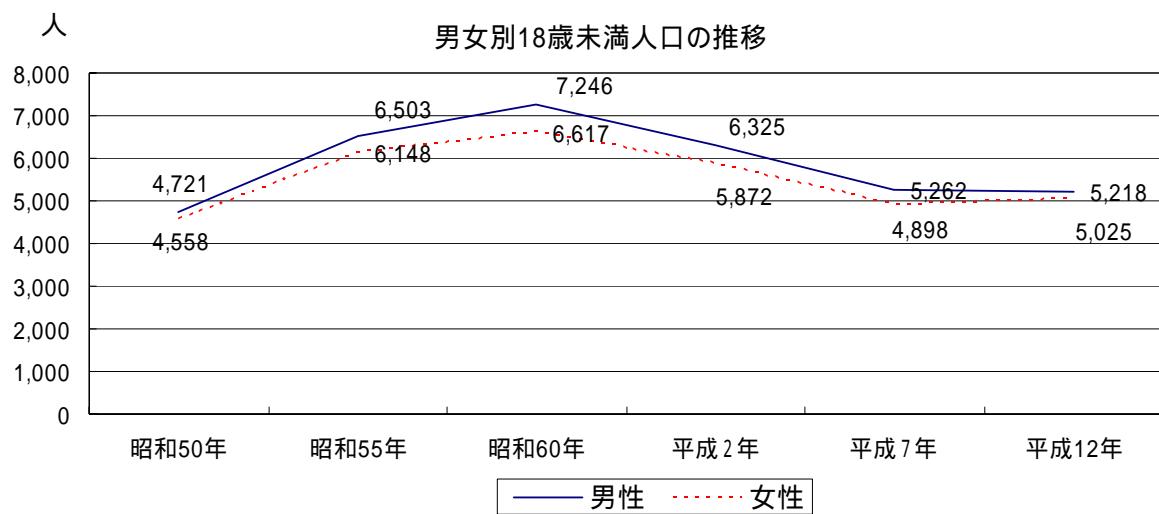
各年齢層とも年々未婚率が高くなり、本市においても少子化の原因の一つに挙げられる晩婚化が進んでいることがわかります。



資料：国勢調査

### ( 3 ) 18 歳未満人口の推移

本市の 18 歳未満人口は、昭和 60(1985)年の 13,863 人から平成 7 (1995)年の 10,160 人へと 4,000 人近く減少しましたが、平成 12(2000)年には 10,243 人となり、わずかですが増加に転じています。男女別では、平成 12 年で男性の方が 200 人ほど多くなっています。



### ( 4 ) 人口動態

平成 6 (1994) 年から平成 15(2003) 年までの 10 年間の自然動態の推移をみると、毎年出生が死亡を上回る自然増を示しています。平成 7 (1995) 年から平成 13(2001) 年にかけて増加傾向にありましたが、平成 13 年以降は再び減少の傾向を示しています。

社会動態は、転出、転入ともに増加傾向を示していますが、転入は年によってバラツキがあります。毎年、転入が転出を上回っていることから社会増の傾向が続いています。

平成 10(1998) 年、11(1999) 年のように 1,000 人を超える増加はなくなっていますが、今後の開発動向によっては増加が見込まれ、さらに、北部地域で開発されたマンションへの入居開始や南部地域で予定されている宅地開発などにより、転入人口が増加することが見込まれることや、転入者の年齢層によっては、乳幼児及び児童・生徒数にも影響が出てくるものと推測されます。

## 人口動態の推移

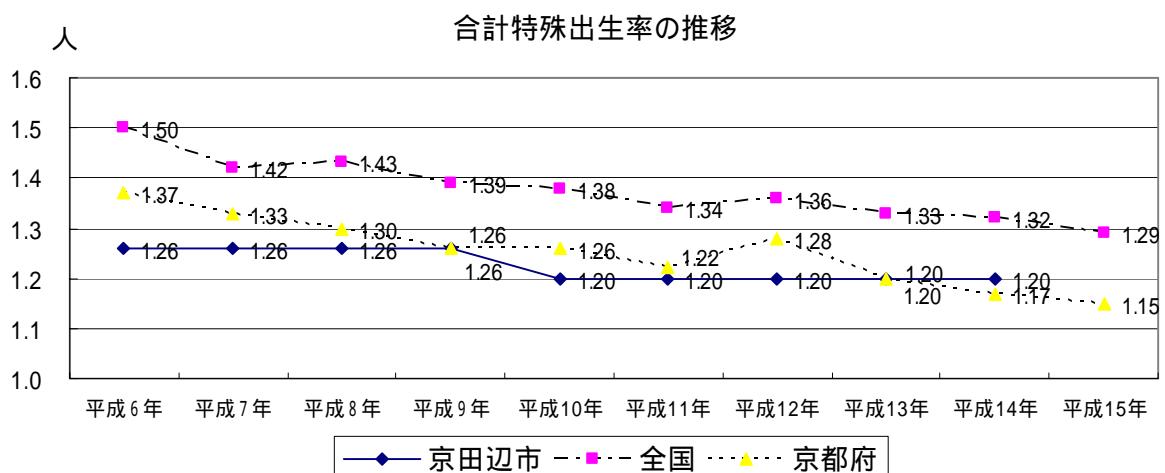
( 単位:  
人 )

	自然動態			社会動態			人口増減
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減	
平成 6 年	382	293	89	3,177	2,512	665	754
平成 7 年	370	309	61	3,186	2,619	567	628
平成 8 年	414	308	106	3,159	2,624	535	641
平成 9 年	434	269	165	3,482	2,758	724	889
平成 10 年	463	331	137	3,972	2,793	1,179	1,343
平成 11 年	471	351	120	4,760	2,789	1,971	2,124
平成 12 年	542	354	188	3,352	2,860	492	722
平成 13 年	544	301	243	3,140	2,933	207	505
平成 14 年	545	366	179	3,203	3,034	169	396
平成 15 年	512	369	143	3,295	2,886	409	601

資料 : 各年住民基本台帳 ( 各年 12 月末日現在 )  
人口増減は、その他増減(職権抹消分)を含む。

### ( 5 ) 出生率

15 歳から 49 歳までの女性の年齢別出生率を合算して算出した合計特殊出生率 ( ひとりの女性が一生の間に産む子どもの数 ) は、平成 6(1994) 年から平成 9 (1997) 年までは 1.26 、平成 10(1998) 年から平成 14(2002) 年までは 1.20 で推移し、出生率の低下傾向がみられます。なお、全国及び京都府と比較すると、平成 13(2001) 年まではそれぞれ下回る数値で推移していますが、平成 14 年には京都府の 1.17 を上回るもの、全国の 1.32 を下回っています。



資料 : 各年人口動態統計

## ( 6 ) 昼夜間人口

昼間人口をみると、15～24歳の昼間人口率が100%を超えています。これは学生に起因するものと考えられ、本市の特徴がよく表れています。

逆に昼間人口率が低いのは、25～29歳と45～59歳の市外で働いている人を多く含む年齢階層で、都市近郊の住宅地としての本市の特徴が表れています。

年齢別昼夜間人口 (単位:人、%)

年齢	昼間人口	夜間人口	昼間人口率
15歳未満	8,182	8,197	99.8
15～19歳	8,088	5,322	152.0
20～24歳	9,554	6,726	142.1
25～29歳	3,421	4,623	74.0
30～34歳	2,983	3,709	80.4
35～39歳	2,809	3,346	84.0
40～44歳	2,501	3,037	82.4
45～49歳	3,038	3,809	79.8
50～54歳	3,987	5,348	74.6
55～59歳	3,310	4,532	73.0
60～64歳	2,794	3,251	85.9
65～69歳	2,500	2,601	96.1
70～74歳	1,916	1,935	99.0
75～79歳	1,361	1,367	99.6
80～84歳	921	921	100.0
85歳以上	851	851	100.0
合計	58,216	59,575	97.7

資料：平成12年国勢調査

昼間人口率 = 昼間人口 / 夜間人口 × 100